

令和2年(2020年)度 学校評価(学校関係者評価書)

学校名	北海道弟子屈高等学校
-----	------------

1 本年度の重点目標

- (1) 郷土の自然・文化・歴史への理解を深め、たくましく生きる力、豊かな心を育てる。
- (2) 生徒一人一人を理解し、主体性を生かし、積極的に学校生活を送る態度を育てる。
- (3) 基本的生活習慣を確立し、自ら判断し、行動する態度と能力を育てる。
- (4) キャリア教育の充実を図り、適性や進路に対する理解を深め、自ら学ぶ意欲を育てる。

【自己評価の適切さ】

4…適切な評価である
3…ほぼ適切な評価である
2…やや不適切な評価である
1…不適切な評価である

2 本年度の経営方針

- (1) 基礎・基本を確実に身につけさせ、さらに個々の可能性を引き出す教育を推進する。
- (2) 家庭・地域との連携を深め、特色ある教育活動と地域に開かれた学校づくりを推進する。
- (3) 教職員の資質能力を高める研修の充実を図り、信頼される学校づくりを推進する。
- (4) 教職員間の連携と共通理解を深め、協働体制に基づく教育活動を推進する。
- (5) 全ての教職員が健康でいきいきとやりがいを持って勤務できるよう、働き方改革を推進する。

【改善に向けた取組の適切さ】

4…十分な効果が期待できる
3…ほぼ十分な効果が期待できる
2…あまり効果が期待できない
1…全く効果は期待できない

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (4…十分 3…おおむね十分 2…不十分 1…まったくできていない)

分野・領域	評価項目	達成状況	前年	取組の適切さ	改善の方策	の適切さ	取組の適切さ
Ⅰ 組織運営	1 目指す学校像・生徒像を共有し、判断基準とすることができた。	2.8	3.1	3.0	・本校のグランドデザインをもとに、育成する生徒像を明確にし、教育活動に結びつける。 ・平時から建設的な意見交流ができるような職場雰囲気をつく。	3.3	3.1
	2 学校課題や生徒情報について積極的に情報共有が行われた。	2.7	3.3	3.0			
	3 分掌・学年間での情報共有が行われ、連携した取組が行われた。	2.3	新設	2.8			
	4 本校生徒の学力向上や進路実現のため、公営塾と連携した取組が行われた。	2.9	新設	3.4			
外部評価者の意見等	・公営塾に期待しています。 ・そもそも本校のグランドデザインが不透明である。グランドデザインが適正か否かの検証が必要ではないか。 ・少人数、各学年1クラスとなり、先生の数も減り大変だとは思いますが、少人数だからこそ、生徒一人ひとりに目を向け、全教員が向き合うこと、情報共有が重要ですね。						
Ⅱ 教職員の資質向上	5 服務規律は守られた。	3.6	3.8	3.6	・課題把握・共有をさらに図り、分掌・学年と連携早期解決に向け取り組む。	3.6	3.2
	6 学校課題解決に向けて「すぐやる」行動をとれた。	3.1	3.2	3.0			
	7 授業研究を通して授業改善を行い、授業力は向上した。	3.3	3.4	3.0			
	8 研修の成果は生徒の指導に還元された。	3.2	3.4	3.2			
外部評価者の意見等	・先進校の参観とは？本校の学力レベルに合った他校を参考する方が合理的ではないか？						
Ⅲ 働き方改革	9 教育活動の見直しなどを通して業務の効率化を図り、勤務時間を意識した業務を行った。	2.6	2.7	2.8	・教育活動の目標達成度の視点から、見直しを行う。	3.3	2.8
	10 部活動休養日等に関する取組の趣旨を理解し、完全実施に向けた取組を行った。	3.6	3.3	3.5			
外部評価者の意見等	・教職員の職務規程がよく分からない。 ・業務の効率化はどこの職場でも課題です。先生方が授業の準備や生徒と話す時間を増やすためにも、学校全体で取り組んでください。						
Ⅳ 信頼される学校づくり	11 学校の教育活動を積極的かつ十分に発信し、活動の状況が家庭や地域に伝わった。	2.9	3.1	2.8	・出前授業など、高校の教育力を小中学校に発信することはもとより、「地域の子どもは地域で育てる」意識を高めていく。	3.5	3.3
	12 学習や生徒指導等において、小中学校との連携を十分に図った。	2.9	2.5	2.5			
	13 学校評価の改善の方策は確実に実行された。	3.1	3.0	3.0			
	14 地域の関係機関や団体との密接な連携がなされ教育活動が行われた。（警察・消防・町教委・商工会など）	3.3	3.5	3.0			
外部評価者の意見等	・ホームページの活用を研究してほしい。 ・小中学校との連携は、まずは本校を進学先として選択してもらう方が最優先ではないか。 ・家庭や地域、中学校、小学校への情報提供や連携は重要です。先生方一人ひとりが発信者として意識を持っていく必要があります。						

V 学習指導	15	「主体的・対話的で深い学び」に向けて授業改善を実践した。	3.1	3.3	3.0	・どの力をどのようにして評価し、評価基準を具体的にシラバスに記載するように改善する。 ・取り組むことによって生徒が学習する意義をより感じられる形に改善していく。	3.5	3.1
	16	シラバスの「活用と改善」は行われた。	2.4	2.8	3.0			
	17	生徒の授業外学習時間の増加（家庭学習時間や資格取得の推進など）に取り組んだ。	2.8	3.0	2.5			
	18	生徒や保護者、地域のニーズに応えた特色ある教育課程を編成・実施するとともに点検・改善に努めた。	3.0	3.1	2.5			
外部評価者の意見等		・生徒や家庭の目標に左右されるものであり、満点は難しい。 ・家庭での学習時間が増えないのは、生徒が目的や目標を持っていないからでしょうか？また、小中時代の教育も重要なので、やはり連携が必要です。						
VI 生徒指導	19	生徒の状況についての情報が共有され、生徒指導・支援があらゆる場面で適切に行われた。	2.8	3.2	2.8	・規程や通達の確認・遵守。 ・リモートでの奉仕活動の企画や少人数で参加できる活動に積極的に取り組んでいく。	3.5	3.1
	20	生徒が主体性を発揮できる機会を意図的に設けた。	3.0	3.3	3.3			
	21	HR活動や学校行事に生徒全員が積極的に参画するよう指導した。	3.0	3.3	3.3			
	22	生徒は地域社会へ積極的に貢献した。	2.6	3.5	2.8			
外部評価者の意見等		・家庭の理解や姿勢が重要であり、学校の力だけでは限界がある。 ・コロナの影響もあったとはいえ、もしそれが無かったとしたら何ができていたでしょうか？ネットワークを活かして有効な対策を今からぜひ準備してください。						
VII いじめ問題への対応	23	本校におけるいじめへの対処方針や指導計画を明確にした。	3.4	3.4	3.3	・生徒理解を深めるために、学年と教育相談委員会の連携の仕組みづくりを再構築する。 ・予防に努めることを最重点としながら、問題発生時には基本方針に基づき対応する。	3.3	3.0
	24	日ごろより、いじめの実態把握に努め、いじめの早期発見・早期防止を心掛けた。	3.5	3.4	3.3			
	25	いじめの対処方針や取組について、保護者や地域と共有し、理解や協力を得た。	3.3	3.2	3.3			
	26	いじめが生じた際に、学校全体で組織的に迅速に対応する体制が整備され機能していた。	3.4	3.4	3.3			
外部評価者の意見等		・家庭のいじめ教育も必要であり、学校現場としては、頑張っていると感じる。						
VIII 進路指導	27	3年生の進路希望は実現した。	2.6	3.3	3.0	次年度以降の計画について、具体的に見直して作成し、明確な方針のもとで、3年間を見通した取組を学校全体でできるようにする。	3.7	3.0
	28	教職員が共通理解と協力のもと、進路実現に向けた取組が、生徒の実態に応じて行われた。	2.7	3.0	3.3			
	29	本校のキャリア教育の方針が作成され、生徒が自己の将来の在り方・生き方を自ら考えることのできるよう効果的な指導が行われた。	2.6	3.2	2.8			
外部評価者の意見等		・進学先の停滞が、本校への進学者数の低下につながっているのではないかと。 ・まだ確定していない生徒のフォローをお願いします。自己の将来について考えることは常に意識してほしいですね。						
IX 健康安全指導	30	保健衛生についての情報は提供され、生徒の適切な行動に結びついた。	3.5	3.5	3.3	保健だよりの発行や検診・行事前後の健康指導を今後も継続する。	3.6	3.2
	31	防犯、防災訓練は実践的に行われた。	3.6	3.7	3.8			
外部評価者の意見等		・空気の入れ換えで風邪が引くことがないような対応をお願いしたい。 ・生徒の犯罪がないのは素晴らしいこと。						
X 道徳指導	25	ボランティア活動などを通して、生徒の自主性、自律性を高めるとともに、豊かな人間性を培う場になった。	2.7	3.3	3.3	すべての教育活動において、望ましい生活習慣について指導することはもとより、実社会での自己の在り方をイメージさせるなどの指導を充実させる。	3.4	3.1
	26	基本的な生活習慣の定着や社会生活のルールを守る態度やモラルの育成に努めた。	2.5	3.3	3.0			
	27	生命の尊さや他を思いやる心を育てた。	3.1	3.5	3.3			
外部評価者の意見等		・学校訪問の際に挨拶のできる生徒と全くできない生徒に分かれています。あと一歩のところですね。						